明るい小矢部
No.209
2021年4･5月号
年4回6500部発行
発行
日本共産党
小矢部市委員会
小矢部市七社 245
砂田喜昭
TEL 67-4322
FAX 67-4842
日本共産党発行
しんぶん赤旗
日刊●月 3497円
日曜版●月 930円

＝コロナに変異株＝

PCR検査を大規模に

国内でコロナの感染が拡がっています。3月、E484Kというタイプの変異株が見つかりました。日本国内で変異した可能性があり、ワクチンの効き目を弱める免疫逃避のおそれが指摘されています。

コロナウイルスのやっかいなことは、感染しても症状が出ない期間があることです。無症状感染者が知らぬ間に感染を拡大します。コロナ感染を抑制するには、PCR検査を大規模に行って、無症状感染者をいち早く発見し保護することです。

政府の新型コロナウイルス対策本部分科会の尾身茂会長は国会で、重症化リスクの高い場所への社会的検査は「感染対策の上で非常に意味がある」として、「この検査は1回だけやるのではほとんど意味がない。定期的に続けてやるのが極めて重要だ」と述べました。

共産党「1日10万件の検査を」

共産党の小池書記局長はPCR検査について、13都府県で「1日1万件をめざす」とする政府方針はあまりにも少ないと指摘し、感染拡大の予兆をつかむために「1日10万件」の規模に検査を広げていく方針を政府として示すべきだと提起しました。

ところが実際に政府がしていることは、1日779件の検査キットを配っているだけで、変異株の流行スピードに追いつけません。

市民の声

えっ！病床削減だって？

コロナ第4波を前に

急速な感染再拡大が始まり、ホテルや自宅療養中に亡くなるコロナ患者が相次いでいるのに、菅政権は20万床の「病床削減推進法案」を国会に提出した。

コロナで病床確保を要請しながら削減とは何事か、こんな法案は撤回すべきだ。

「第4波」の封じ込めのため、(1)十分な補償、(2)大規模な検査、(3)医療機関への減収補填(ほてん)、(4)東京五輪・パラリンピック中止の決断こそ必要でないか。

3月議会一般質問

今こそ30人学級へ　市が先進的役割を

多人数学級支援講師 廃止でなく、対象学年の拡充を

【砂田市議】国は21年度、小学2年生を35人学級にするが、教育予算を過去10年間で500億円も減って削っている。これを減らさず活用していればとっくに小学校での35人学級は実現していたはずである。

1クラス31人以上では授業に支障が出るから、市独自に多人数学級支援講師を配置している。これを続けることは30人学級実現への先駆けとなる。廃止ではなく、対象学年拡大で充実させてほしい。

【教育長】毎年市小中学校長会から対象学年拡大の要望が出されているが、厳しい財政状況の中、22年度からは廃止することにした。今後はスタディメイト派遣事業で対応したい。本市としては30人学級の一日も早い実現へ、国、県へ働きかけていきたい。

学校は統廃合ではなく長寿命化こそ

【砂田市議】学校統廃合は子どもたちの人格の完成にとって有効か、そうではない。

市の学校長寿命化計画では、耐震診断で建物のコンクリート圧縮強度は基準を十分に満たしており、長寿命化が望ましいと判断している。統廃合し旧校舎を解体すれば資源の浪費になる。解体費用も莫大である(旧市民会館の解体に850万円、石動コミュニティセンター解体に4490万円)。

【教育長】学校の統廃合については、もっとも望ましい教育環境はどうあるべきかを検討するものだ。望ましいのは1学年に複数学級とされている。21年度策定予定の小中学校再編推進計画にあたっては地域の方々との意見交換会を開くなど幅広く意見を聞いて検討したい。

【砂田市議】望ましい学校規模が「1学年に複数学級」には、教育学上の根拠はまったくない。文部科学省にみられる特殊な議論で、世界では少人数が望ましいのは常識だ。統廃合すれば、限りなく35人学級に近づき、少人数学級に逆行する。

日本は、米軍兵士の子どもに「思いやり予算」で18人学級を提供している。米兵の子にも小規模が望ましくないのなら、35人学級にすればよいではないか。なぜそうしないのか。世界では少人数学級が教育に最適だからだ。日本の子どもこそ思いやるべきでないか。

OECDのデータにもとづく世界の学級規模は下表の通り(1クラスの人数と広さの国際比較)。

1クラス	人数 人		広さ ㎡		人数
	小学	中学	韓国ソウル市	67	26人
OECD平均	21.3	22.9	米カリフォルニア州	89.2	上限30人
日本	27.2	32.2	在日米軍基地	79	18人
小矢部市	25.6	29.4	日本	64	上限 35から40人
			小矢部市	62.7	

小矢部市21年3月1日現在

ひろば

「10代の息子が『どう生きるか』迷っているようです」。『100分で名著　資本論』を話題にした集まりに参加した人の言葉だ。『『利潤ばかり追求する生き方はしたくないな』と思っているみたい」とのこと▼この話を聞いて「すごい。頼もしい」と思った。どのような生き方を見つけるか、人それぞれの探究の旅が続くだろうが、その道しるべになるのが歴史や古典かもしれない▼筆者の青春時代も、うたごえサークルで「原爆許すまじ」やベトナム反戦の歌をうたい、平和な日本と世界をと活動してきた。そんな折、南ベトナム解放、米軍撤退の歴史的事件にであった。一人の人間としてやってきたことはちっぽけなことだったが、それでも歴史は動くと実感できた▼ミャンマーのクーデターに対して「非暴力、不服従」の全国民的なたたかいが続いている。10年前、半世紀にわたる軍事独裁政権から民主政治への道を開いた民衆のたくましさに連帯したい▼日本でも一世紀をふり返れば、天皇中心の専制政治、侵略戦争の時代から大きく変わった。そこには小林多喜二や宮本顯治など日本共産党の99年の不屈の闘いがある。宮本顯治は獄中で明治維新の志士たちの伝記も手に取ったと聞く▼日本共産党はいま、中国の東シナ海などでの覇権主義、香港などでの人権侵害に対して、「共産党の名に値しない」ときびしく批判している。志位和夫委員長が「文藝春秋」5月号で、「国際法に照らして無法だ」と世界中で迫ろうと呼びかけている▼私たちも歴史と古典から学び、未来への希望を持ちつづけたいものだ。